奥出雲のたたら製鉄を運営した９つの家

江戸時代（1603-1867）、日本は数百の藩に分割され、それぞれの藩は大名（広い土地を収めた大領主）によって統治されていた。藩の経済を強化するため、各大名はしばしば特定の産業における独占的な営業権を個々の家に与えた。この特権と引き換えに、藩は利益の一部を受け取った。

1700 年代初頭から、奥出雲とその周辺の地域のすべての製鉄所は 9 つの家によって管理されるようになった。かつては土地を持っていれば誰でも製鉄業を営むことができたが、1726 年、これら 9 つの家が松江藩（奥出雲が属していた藩）の正式な製鉄所経営者（鉄師）として認可された。当時の松江藩は大名・松平宜維（1698～1731）が統治していた。

各家は、砂鉄の採取、木炭を安定的に供給するための森林管理、熟練した技術者の採用、生産した鉄の出荷など、すべての工程を管理していた。たたら製鉄で最も裕福だった 4 家のうち 3 家(櫻井家、絲原家、卜藏家)は、現在の奥出雲町内に、田部家はその近くの現在の雲南市に住んでいた。彼らの邸宅や庭園の多くは、現在一般公開されている。